

7月1日からの全国安全週間に合わせて、各支部で現場訪問・宣伝行動に取り組みました。

# 安全週間に現場宣伝・懇談 自治体交渉に生かす

## 足立 建退共の周知が必要 所長と「安全」「業界」で意見交換

【足立・はつり解体・小野清記】足立支部では7月4日、全国労働安全週間にあわせて、労対部、賃対部、CFC(足立支部のPAL) 役員の計7人2班に別れて区内12現場に



現場所長との懇談。右端が小野さん

訪問し、安全啓蒙、パトロールを取り組みました。急な訪問でしたが、現場に入れてもらい、所長と安全対策や業界が抱える課題について意見交換をさせてもらいました。

熱中症対策では、夏以降も続く現場で冷水機や製氷機が整備され、詰所にクーラーやOS-1が散見されました。OS-1が散見されました。社会保険問題については、未加入者の入場禁止がさらに強まっており、口頭での加入指導に留めているという現場は少数でした。

## 新宿 公契約条例が成立 対象工事2千万円以上に

【本部・佐藤正雄記】6月25日、新宿区議会本会議において、「新宿区公契約条例」が可決成立しました。本年10月から施行の運びとなります。昨秋に区長選挙が行なわれ、再選を果たした吉住健一

らの意見聴取などの動きが進められてきました。東京土建は区内の建設労働者を代表する立場で意見を表明し、より良い条例制定をめざして奮闘してきました。

【小平東村山・書記・増田邦彦記】小平東村山支部では全国安全週間に合わせ、7月5日に8人の参加で、市内4現場(公共2現場、民間2現場)の訪問行動を取り組みました。安全対策や労働条件について働く人の声を、マグネット(ピタッと)アンケート

## 墜・転落最も注意 ピタッとアンケートで



マグネットを付けて回答する形式で実施

微増傾向ですが、回答者全体29人の内22人(75・8%)、公共現場18人の内12人(66・6%)が設計労務単価の全国平均値を下回る賃金で労働している実態が明らかになりました。



現場前でアンケートを採りながら対話

【杉並・書記・高取二三記】杉並支部では、設計労務単価が上がったにもかかわらず、賃金が上がらないため、7年前から、毎月定例で現場賃金調査をしています。7月の調査は、1日〜7日の労働安全週間にあわせて4日に行ないました。

【板橋・書記・森千恵子記】板橋支部は7月3日、穴澤・林両副委員長と書記2人の参加で板橋区発注の公共工事現場

【板橋】地場ゼネコンの公共工事関係づくりを進める

【杉並】賃金上がってない 安全強調で仕事に支障

【本部・高倉一歩記】6月28日、29日、本部設計者の会として初めての個別住宅・建築相談会(けんせつプラザ)一階エントランスを活用し実施しました。設計者の会幹事会が中心となり、新宿区後援取得、区報掲載、柏木地区掲示板

## 設計者の会が本部会館で 相談会を初めて開催

【本部】高倉一歩記 10カ所への貼り出し、住民向け相談、組合員向け相談など、開催内容を検討し具